

## 今日のみことば

### □ 6月17日(日) 歴代誌上 2章

歴代誌上の1章から9章までは、イスラエル民族を中心として系図が記されており、この章では、ユダ、ラム、カレブ、エラフメエル、カレブの他の子孫の系図が記されている。

### □ 6月18日(月) 歴代誌上 3章

この章にはダビデの子孫の系図が記されている。ダビデ王朝の華やかな時代の人々、その王朝から追放されされた人々、追放中の王家の系図が記されている。

### □ 6月19日(火) 歴代誌上 4章

イスラエル民族には系図の形で、歴史を表す習慣がありました。この章にはユダ部族の子孫のもう一つのリストが記されています。

### □ 6月20日(水) 歴代誌上 5章

この章にはルベンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの半部族の子孫について記され、さらにレビの子孫の大祭司の系譜についてふれる。

### □ 6月21日(木) 歴代誌上 6章

レビ族は幕屋の中で、後には神殿で神に仕えるために取り分けられました。レビ族の子孫アロンは、イスラエルの最初の大祭司となった。

### □ 6月22日(金) 歴代誌上 7章

系図で歴史表してきた彼らも、細かに取り上げるほどでないものはその筋だけ記した。ここにはイッサカル、ベニヤミン、ナフタリ、マナセ、エフライム、アシエルの子孫の系図がある

### □ 6月23日(土) 歴代誌上 8章

この章はベニヤミンの子孫のもう一つのリストが記されている。サウル王の家族についてです。サウル王と息子ヨナタンのことなどです。

---

ろ ぼ No. 1872  
2018年 6月17日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

創世記 5:21

エノクは六十五歳になったとき、メトシェラをもうけた。

今日は「父の日」です。家族伝道を覚える私たちにとっては、大切な一日です。が、この日は聖書に定められた一日ではありません

今日、与えられた創世記のみ言葉から聞かせていただく「エノクは神と共に歩み」との言葉、これこそが私たちがしっかり聞かなければならない言葉です。

私たちがどのように日々を生きているか、問われています。この今日、私たちの周りで何が起きているか、この激しい今日の世界の動きの中で、神さまは私たちをどのように生かそうとしておられるのか。与えられた一人の人物を通して聞かせていただこうと思っているのです。

エノクという人物です。彼はアダムから3代目です。彼については「神と共に歩む」と記された人物で、確かにその詳細については記されていません。しかし、いまひとつわかることは「神が取られたのでいなくなった」ということです。ここで紹介されている神に生かされてきた人びとについての記事を読ませていただきますが、「彼らはそれぞれ何年生き、そして死んだ」と記録されています。エノクは違います。それこそが私たちがしっかり聞かなければならないことであって、そしてあってほしい父親の姿です。

神と共に歩む、と称されるとき、それはすべて神さまに罪赦され清められて、神さまにしっかりと従って歩む、喜びに満ち

あふれた人を想像させていただきます。今日私たちは十字架のイエスさまによって罪赦され、復活の主と共に生かされている人にほかなりません。常に神さまのみ言葉に耳を傾け、その導きのままに万事を行うことです。神さまがこの世を救うために御子イエスを賜った、神さまは自分のすべてを私たちのために与えてくださったことをしっかり旨とすることです。絶えず人の救いのために行動することこそ、私たちは心に留めさせていただかねばならないのです。「イエスは神が共におられるのでよい働きをしながら、また悪魔に押し付けられている人々をいやしながら、巡回されました」(使徒10:17)とあるように、神と共に歩むものは、常に神さまのみ栄と魂の救いのために、生き、苦しみ、働くものでなくてはならないのです。

そのエノクから「メトシェラが生まれた」とあります。父エノクがどのように生きてきたか、メトシェラはしっかりと見てきた人物です。彼の履歴はしっかりとエノクに続く人物としてここに記されています。しかも死んだのではありません。「神にとられた」エノクを見ているのです。彼がしっかりと神と共に歩んだ道を見ていました。そしてメトシェラも神に祝福されて生涯を全うしたのです。私たちは、しっかりと父が歩んだ足跡をたどりたいものだと思っています。どのようにメトシェラが父エノクを見ていたか。心に留めさせていただくとき、しっかりと心に留めさせていただく一事であることは確かだと言わせていただかねばなりません。

パウロがエフェソの信徒への手紙で書きました「キリストに仕えるように」生きることこそ、今日聞かせていただきたいです。私はその者をしっかりと、神は「引き取ってくださる」と信じています。

次週の聖書・説教

ロマ1:1-17

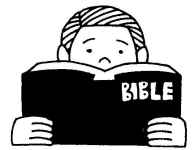
福音は誇り

聖書の学び・祈祷会

コリント二 11:30-12:10 弱さの中でキリストを誇れ

パウロがいかに主の偉大は働き人であったか。知らない人はいませんが、当時の人たちの、「月足らずで生まれたような」パウロを使徒と受け止めることができなかったエルサレム教会を寂しく思わせていただいています。

しかしパウロは、だれが何と言おうと「あの日」の出来事を忘れることはできませんでした。そしてただ、十字架にかかられたイエスをおいてにほかに、私たちが救われる道はないことを十分に理解をしていました。彼は彼なりの素晴らしい信仰体験がありました。学問的にも他の誰よりも誇るべきものを持っていました。神はそのパウロをしっかりと支えてくださいました。そのパウロが「高慢にならないようにと、肉体にトゲを与えられ」三度も取り去ってくださるようにと願ったが、神の答えは「わが恵み、汝に足れり」でした。しっかりとパウロに聞き学ばねばなりません。



Read God's Word.